

Online Database を使ってみよう！

皆さんはデータベースを使ったことがありますか？ 奈良女子大学では、学術情報センターで契約しているデータベースを学内から無料で閲覧することができます。是非ご活用ください。

● レポート作成などにおススメな辞書・事典検索サイト

辞書・事典検索サイト

ジャパンナレッジ Lib

<https://japanknowledge.com/library/>

80以上の辞事典、叢書、雑誌が検索できる国内最大級の辞書・事典サイトです。日本語や英語にとどまらない様々な言語の辞典から『日本大百科全書』『国史大辞典』『日本古典文学全集』『東洋文庫』など、あらゆる項目の一括検索が可能です。

【コンテンツ一覧】<https://japanknowledge.com/contents/library.html>

【使い方】<https://japanknowledge.com/support/psnl/guide01.html>

「日本近代文学大事典 増補改訂デジタル版」「有斐閣 現代心理学辞典」「新釈漢文大系」や「日経キーワード 2023-2024」の「明治文学全集」等、毎年多くのコンテンツが追加、更新されています。ぜひご活用ください！

学外からもご利用が可能です！（要奈良女ID）

<https://www.nara-wu.ac.jp/aic/databases/JKlogin.pdf>

同時アクセス数：2

学認

● 科学技術系の文献を一括で検索

データベース

JDream III

<https://jdream3.com/service/search/>

国内外の科学技術や医学薬学関係の文献情報を検索できる、日本最大級の科学技術文献データベースサービス。上記のURLに接続し、右上の「IP 接続ログイン」をクリックしてアクセスしてください。

※利用者の「お名前」欄には「奈良女子大学」とご記入願います。

【使い方マニュアル】<https://jdream3.com/guide/manual/>

学内同時アクセス数：1

学内のみ

● 新聞記事データベースが便利！

新聞は情報が日々発信・蓄積される資料であり、現在進行中のトピックや過去のトピックについて、事実関係の確認や時系列での調査を行う手段として有効な資料です。調べたい記事がどこに載っているかわからない場合は、データベースなどを使うと便利です。

新聞記事データベース

朝日新聞クロスサーチ

<https://xsearch.asahi.com/>

1879年（創刊）から現在までの朝日新聞の記事が検索できるデータベース。朝日新聞デジタル、週刊朝日、AERAの他、明治・大正紙面データベース、昭和（戦前）紙面データベース、人物データベース、歴史写真データベース、アサヒグラフ、英文ニュースデータベース等もご利用可能です！

【使い方マニュアル】https://xsearch.asahi.com/help/pdf/manual1_clr.pdf

★新聞についてはオンライン・データベース以外にも、CD-ROMや縮刷版などもご利用いただけます。

詳細は新聞の利用と新聞記事の探し方」リーフレットへ（<https://www.nara-wu.ac.jp/aic/guide/leaflet/newspaper.pdf>）

★ **学認** 奈良女IDを使って学認によるログインを行うと、学外からでもデータベースの他、電子ジャーナル、電子ブック等がご利用いただけます。（<https://www.nara-wu.ac.jp/aic/databases/gakunin.html>）

その他の奈良女子大学で利用可能なデータベース

データベース名	URL	データベース説明
国立国会図書館 サーチ	https://ndlsearch.ndl.go.jp/	国立国会図書館の所蔵資料やデジタル資料を検索可能です。また、国立国会図書館の各種サービスも利用できます。 国立国会図書館とデータ連携している公共図書館や大学図書館、研究機関等の所蔵資料やデジタル資料を一括で検索できます。
PubMed	https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/	米国国立医学図書館(NLM)内の国立生物工学情報センター (NCBI) が提供しています。 PubMed には出版前の文献、MedLine 登録前の文献、MedLine では分野外とされている雑誌の文献も登録されています。 PubMed は現時点では無料で公開されています。
MathSciNet	https://mathscinet.ams.org/mathscinet	Mathematical Reviews, Current Mathematical Publications のオンライン版です。米国数学会が提供する世界の数学文献（雑誌論文・書籍・会議録等）の情報を検索可能です。 EBSCO Discovery Service の契約終了に伴い、学外からの利用方法が変更になりました。（詳しくは下記の「AMS 電子製品リモートアクセス（ペアリング）ガイド（丸善雄松堂作成）」をご覧ください。 https://kw.maruzen.co.jp/ln/ec/ec_doc/ams_pairing_guide.pdf
CAS SciFinder 学内のみ	https://scifinder-n.cas.org/ (ログイン画面)	CAS が提供する世界最大の物質・文献・反応データベース。化学・医薬・生化学・物理・工学分野等の情報を収録。化学構造からも物質検索可能。 要ユーザー登録: https://www.nara-wu.ac.jp/aic/gakunai/SciFinderUser.html
CAS Formulus 学内のみ	https://formulus.cas.org/ (ログイン画面)	CAS が提供する製剤・配合情報に特化した検索ツール。 CAS SciFinder のユーザーID でログイン可能。
CAS Analytical Methods 学内のみ	https://methods.cas.org/ (ログイン画面)	CAS が提供する分析手順、測定機器、バリデーションデータなどの分析情報に特化した検索ツール。CAS SciFinder のユーザーID でログイン可能
CiNii Research -文献だけでなく、研究データ、研究プロジェクト情報等を検索	https://cir.nii.ac.jp/	2022年4月 CiNii Article から CiNii Research に移行しました。文献だけでなく、外部連携機関、機関リポジトリ等の研究データ、KAKENの研究プロジェクト情報などを含めて、シンプルなインターフェースから気軽に横断検索することができます。
CiNii Books - 大学図書館の本を探す	https://ci.nii.ac.jp/books/	全国の大学図書館等の資料所蔵状況を確認できます。 (令和7年(2025年)後半に CiNii Research に統合予定。)
CiNii Dissertations -日本の博士論文をさがす	https://ci.nii.ac.jp/d/	国内の大学および独立行政法人大学評価・学位授与機構が授与した博士論文の情報を検索できます。(令和6年(2024年)12月上旬に CiNii Research に統合予定。)
Google Scholar	https://scholar.google.com/	学術情報に特化した検索エンジンです。学術専門誌、論文、書籍など、さまざまな分野の学術資料を検索できます。(詳細は Google Scholar 画面の「ヘルプ」をご覧ください。)

★今回ご紹介したデータベースは全て学術情報センターの「情報検索」のページ (<https://www.nara-wu.ac.jp/aic/databases.html>) から、利用可能です。上記以外にも無料で利用可能なデータベースを掲載していますので、是非ご活用ください。